

第6学年体育科学習指導案

日 時：令和元年10月2日（水）5校時
場 所：新宿区立戸山小学校 体育館
対 象：第6学年

1 単元名 マット運動

2 単元の目標

『知識及び技能』

回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。

『思考力・判断力・表現力等』

自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

『主体的に学習に取り組む態度』

運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 運動の特性

回転系や巧技系などのいろいろな技に挑戦し、できなかったことができるようになったり、上手になったりして、自己の課題を達成する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

4 児童の実態

○一般的な児童の実態

本学級の休み時間には学級の半数の児童がボールや鬼遊びをして遊んでいる。もう半分の児童は休み時間は室内で読書や友達同士で話をして過ごしている。体育の学習においては、積極的に活動に参加し、得意と感じている児童が多数いる。器械運動に関しては、学級のほぼ全員がブリッジをすることができ、女子に関しては全員が片足ブリッジをすることができる。しかし、高学年になり、体が大きくなるにつれ、マット運動などに苦手意識をもち始めている児童も少なくない。また、体格の個人差が大きく、体幹が弱かったり、自分の体を支えることが難しかったりする児童もいる。1学期の運動会では、バランス技や補助倒立やブリッジなどの技にも取り組んできた。その練習の中では、2人1組やグループになって互いに見合ったり、教え合ったりする場面を設け、どの児童も練習に意欲的に参加することができた。

本単元を通して、マット運動の技の動きを分解して考え、どのポイントをおさえれば技ができるようになるのか、運動の仕組みを見付けられる目を養ってほしい。本単元においてその意識を養うことで、他のどの運動でも運動のポイントを見付ける意識が育ってほしいと思う。また、器械運動は自分の動きが見えないため、他の児童の「外からの目」が大切である。児童同士で、自然とお互いの動きを見合い・教え合う関係が築けるようになってほしい。

○本単元にかかわる児童の実態①（令和元年7月19日実施 回答数30名）

質問項目		回答（数字は人数）	
① 体育の学習は好きですか。		・好き	16
		・どちらかという人喜欢	7
		・どちらかという好きではない	4
		・好きではない	3
② 器械運動（鉄棒・マット・跳び箱）は好きですか。	鉄棒運動	・好き	6
		・どちらかという喜欢	12
		・どちらかという好きではない	5
		・好きではない	7
	マット運動	・好き	10
		・どちらかという喜欢	10
		・どちらかという好きではない	6
		・好きではない	4
	跳び箱運動	・好き	16
		・どちらかという喜欢	5
		・どちらかという好きではない	6
		・好きではない	3
③ マット運動で「楽しい」と感じたときはどんなときですか。（当てはまる数だけ○）		・新しい技、むずかしい技ができるようになったとき	19
		・今までできた技が、さらに上手にできるようになったとき	15
		・技のコツやポイントを見つけたとき	17
		・友だちに動きを見てもらい、アドバイスしてもらったとき	9
		・友だちにほめられたとき	14
		・友だちにアドバイスして、友だちが上達したとき	8
		・たくさん練習したとき	10
		・その他	3
④ マット運動で「楽しくない」と感じたときはどんなときですか。（当てはまる数だけ○）		・技がむずかしくてできないとき	19
		・技が簡単すぎて、練習する必要がないと思うとき	3
		・「怖い」と感じる時	15
		・友だちに、自分の動きを見てもらったりアドバイスしてもらったりするとき	1
		・友だちの動きを見たり、アドバイスしたりするとき	1
		・練習する時間が少ないとき	6
		・その他（長く感じるから）	3
⑤ 技ができるようになるために、どのようなことをしていますか。（当てはまる数だけ○）		・技のコツやポイントを見つけて、自分のめあてをもつこと	17
		・自分の力に合わせて、練習の仕方を工夫すること	16
		・何度も、できない技に挑戦すること	21
		・今までできた技を さらに上手にできるようにすること	8
		・自分の動きを見てもらい ほめてもらったり アドバイスしてもらったりすること	13
		・友達の動きを見て、ほめたりアドバイスしたりすること	4
		・ICT を使って自分の動きをみるこ	3
		・その他	4

《考察》

①「体育の学習は好きですか」の設問では、約90%の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と答えている。これらの児童からは、「体を動かすことが好き」、「楽しい」、「できないことができるようになる」と達成感がある」という理由が挙げられている。それに対して約10%の児童が「どちらかといえば好きではない」と答えている。理由としては、「疲れる」、「得意ではない」との回答が多かった。

体育の学習に対して肯定的に捉えている児童が90%近くいたのに対して、鉄棒運動が好きと答えている児童は60%、好きではないと答えている児童が40%、マット運動が好きと答えている児童は約66%、好きではないと答えている児童が約34%、跳び箱運動が好きと答えている児童は約70%、好きでは

ないと答えている児童が約30%だった。体育は好きだが、鉄棒運動やマット運動を好きではないと感じている児童が多いことが分かった。

器械運動全体を通して、好きと答えた児童の理由としては、「楽しい」、「できる」、「面白い」、「得意」との答えが多かった。他にも「できると気持ちがいい」、「跳べると嬉しい」、「達成感を感じる」、「いろいろな技に挑戦できる」などと、気持ちの変化をはっきりと感じている児童も多かった。それに対して、「好きではない」と答えた児童の多くが「技ができていないと感じる」、「怪我をした（しそうなった）経験がある」、「怖い思いをした」などの理由から意欲的に取り組めないことが分かる。

⑤マット運動で多くの児童は技が上達するために、「技のこつを理解」、「めあて学習」の重要性を理解している。一方、「今までできた技をさらに上手にできるようにする」という児童が8名しかいない。つまり、自分ではその技ができていていると思っているため、技の完成度を高めていくことへの意識が低い。「技の見合い」が大切だと13人が気付いているにも関わらず、実際は十分にできていない。そのため、ICTや学習資料を有効活用させ、技の完成度を高めていけるようにしていく必要がある。

本単元では、単元当初に明確な「目的意識」をいうゴールイメージをもたせる。これにより意欲と技能の進展を目指す学習過程を想定している。動画資料など視覚的に影響力のある資料を準備し、学習資料の必要性や重要性を実感させたい。また、自分の技を動画に撮って見ることで、自分の課題に気付いたり、練習方法を工夫したりさせたい。このような手立てを基盤に起き、学習活動のより一層の活性化を目指していく。

○本単元にかかわる児童の実態②（令和元年7月19日実施 実施数30名）

児童が今まで学習してきた運動である「前転」、「後転」、「側方倒立回転」において調査を実施した。今回、それぞれの運動において、「着手」、「回転動作」、「着地」の3つの視点に分けた。また、その中でも「A:基準の動きをスムーズにできる」「B:基準の動きの通りにできる」「C:できない」の3段階で児童の動きを分析した。

【前転】

着 手：両手を開いて指先まで手の平すべてをマットに付ける。

回転動作：頭の後ろを付ける→足を伸ばし大きく振り出す→踵をおしりに引きつける。

着 地：両手を前に出し、しゃがみ立ちになる。

前 転							
番号	着手	回転	着地	番号	着手	回転	着地
	A	A	A		A	A	A
	A	A	A		A	A	B
	B	A	A		C	A	A
	A	A	B		A	B	B
	A	A	A		A	A	B
	A	A	A		A	A	A
	C	A	A		A	A	B
	A	B	A		A	A	A
	A	B	B		A	A	A
	A	B	A		A	B	B
	A	A	A		A	A	A
	A	A	B		A	A	A
	A	A	A		A	A	B
	A	B	A		A	A	B
	A	B	A		A	A	B

【後転】

回転動作：体を丸めながら、おしり→背中→頭の後ろの順でマットに付き、腰を上げながら後ろに回る。

着手：両手を開いて指先まで手の平すべてをマットに付けて、マットを押す。

着地：両手を前に出し、しゃがみ立ちになる。

後 転							
番号	着手	回転	着地	番号	着手	回転	着地
	A	A	B		B	A	B
	A	A	A		B	B	B
	B	A	B		B	B	B
	B	A	B		A	A	B
	C	B	B		B	B	B
	B	A	A		A	A	A
	B	A	A		B	A	B
	A	A	B		A	A	A
	A	B	B		A	A	A
	B	A	A		A	B	B
	A	A	A		A	A	A
	B	B	B		A	A	B
	B	A	A		C	C	B
	B	A	B		B	C	C
	A	A	B		B	A	B

【側方倒立回転】

着手：前方に片手ずつマットに手の平全体を付ける。

回転動作：腰と膝を伸ばした姿勢で倒立をしながら回転する。

着地：片足を振り下ろして起き上がり、横を向いている。

側 転							
番号	着手	回転	着地	番号	着手	回転	着地
	A	B	A		A	B	A
	A	A	A		A	B	A
	A	B	A		C	C	C
	A	A	A		A	B	B
	A	B	B		A	C	A
	A	B	A		A	A	A
	A	B	A		A	B	A
	A	B	A		A	A	A
	A	C	B		A	B	A
	A	A	B		A	B	B
	A	B	A		A	B	A
	A	B	A		A	A	A
	A	B	B		A	C	C
	A	B	A		A	B	A
	A	A	B		A	B	A

児童の実態調査により、前転は、多くの児童が概ねできているものの、後転、側方倒立回転となると、動きが身に付いていない児童が多い。そこで、本単元では、各動きのポイントを押さえつつ、練習方法を工夫したり、感覚づくりの運動に取り組む時間を取り入れて、基本的な動きが身に付くように努めていく。

5 研究主題に迫るための手立てと工夫

(1) 学習過程の工夫

器械運動は、「できる」、「できない」がはっきりした運動であることから、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが大切であると、小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説体育編に示されている。課題を見付け、その解決に向けた学習過程とは、運動や健康についての興味や関心を高め、運動や健康等に関する課題を見付け、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、課題を修正したり、新たに設定したりして、仲間とともに思考を深め、よりよく課題を解決し、次の学びにつなげることができるようにすることを示している。(小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説体育編 P19 より) 高学年部会では、単元などの内容のまとめりや1単位時間の学習の中で、課題を見付け、その解決に向けた学習(過程)において、グループでの学習を行い、仲間同士で見合い、技のできばえを具体的に伝え合うなど他者との対話を充実させること大切であると考え。そこで、課題を見付け、その解決に向けた学習を行うために、学習過程を次のように展開する。

学習場面	時	学習活動	○教師の支援 ☆対話的な学び
興味や関心を高める	1	オリエンテーション 1 学習の進め方を知る 2 既習の学習の振り返りを行う 3 目的意識をもつ	○既習の学習を振り返り、マット運動の学習を進めていく上で、大切なことを考えさせる。 ○技の系統図や未学習の技の資料(連続図や動画)を準備する。 ☆技の系統図から、自分ができるようになりたい技を選ぶようにする。
課題を見付ける	2	知る時間 4 技に取り組む 5 自分の課題を見付ける ○学習資料や ICT 機器から自分の課題を見付ける 6 学習計画を立てる	○技の系統図から、自分ができるようになりたい技を選び、学習資料から技のポイントを選択させる。 ○学習カードで一人一人の児童のめあてを確認する。 ○第3時から第5時に取り組む技を選択させる。
課題の解決に取り組む	3 ～ 6	取り組む時間 7 めあてを確認する 8 課題の解決に取り組む ○学習資料から課題の解決に向けた活動(練習の場や段階)を選ぶ	○技に取り組む前に友達に自分のめあてを伝えるようにさせる。 ☆仲間と言われた技のポイントをしっかり見る。 ○技のできばえを見る視点を確認する。 ☆自分の試技を見ていた仲間が、どこがどのようにできていたか技のできばえを具体的に伝える。
活動を振り返り、課題を修正し、新たに設定する	3 ～ 6	学習の振り返り 9 学習カードの技のポイントや練習方法を書く。 10 技のできばえを振り返り、どうしたらできたのか、できなかった時には、どこまでできたのかを書く 11 新たなめあてを選択したり、修正したりする 12 次の時間のめあてを選択する	○できていたこととできていないことを確認させ、新たなめあてを選択させたり、修正させたりする。 ☆課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ○児童の発言や学習カードの記述から、よいものを全体で共有化し、価値付ける。 ○グループでの学習が上手にできていたグループを取り上げて称賛する。

(2) 1 単位時間の流れの工夫

感覚づくりの運動に（今もっている力で）取り組む時間【教師主導】

＜第2時～第6時＞主運動を行うために、体を慣らしたり、温めたりする。

①感覚づくりの運動に取り組む。

児童の実態に合わせ、マット運動に関係の深い動きを含む易しい運動に取り組ませる。

②基本的な技の中から、開脚前転・後転・側転に取り組む。

技ができていないか否かの判断は、児童自身で行う。

知る時間（自己の課題を見付け、めあてを選ぶ時間）

①2～3人を1グループとする技能異質の固定グループを基本とする。

・児童の身長や体重、児童同士の間関係など、学級の実態を考慮し、編成する。

固定グループ：グループを変えないことで、単元を通して互いの伸びが分かりやすい。

②技の行い方を知る。

・教師は一連図を用いて行い方を示したあと、示範を見せ、行い方を確認する。または、動画を活用したり、できる児童が手本を見せたりする。

・学習資料で技のポイント、技の系統性を確認する。

③技に取り組み、課題を見付ける。

・同じ系統の技の中から、自分の力に合った技に取り組み、課題を見付ける。

課題とは、技の行い方のなかで、できていないところを指す。

④めあてを選ぶ。

・自分の課題を解決するために、めあて（取り組む技＋技のポイント＋練習方法）を選ぶ。

⑤次時以降に取り組む技を決定する。

・第4時、第5時で取り組む技を選択する。

回転系接点技群、ほん転技群から1つ。巧技系平均立ち技群から1つ。合計2つの技を選ぶ。

取り組む時間

①めあてを確認する。

②めあて別グループでめあてをもって取り組む。

めあて別グループ：見合うポイントが1つなので見る児童は、めあてに対する声掛けがしやすい。

【取り組む児童】

・めあてを伝え、技のポイントに取り組む。

・取り組み終わったら、見ている児童に技のできばえについて聞く。

【見ている児童】

・取り組む児童のめあてができていないか確認できる位置で見て、取り組む児童の技のできばえを伝える。

※グループで、技のできばえを伝えるようにさせる。

※技の全ての行い方に○が付いた児童は、技を繰り返したり、それらの発展技に取り組んだりする。

③めあてを達成したり、技ができるようになったりした児童とそのグループを意図的に取り上げ、紹介する。なお、抽出のポイントとしては、以下の3つを中心に見て回る。

・資料を活用しながら、取り組んでいる。

・友達同士で助言したり、励まし合ったりしながら取り組んでいる。

・課題の達成状況に応じて、自己の課題を変更している。

【技の繰り返し・組み合わせ】

○できるようになった、さまざまな系統の技を繰り返したり組み合わせたりする。

・「できる技」「できるようになった技」「バランスやジャンプ」の中から選択する。

・演技の作り方は、いろいろな技群やグループ技で組み合わせる。

(4) ICT 機器を活用した指導の工夫

自分の動きが確認できるように ICT 機器を工夫して使うことによって、視覚的に自分の動きを確認することができれば、つまずきの状況やそれを克服するための技のポイントをつかむことができ、運動技能の向上を図ることができる。また、ICT 機器を効果的に活用することで、目標となる技の運動像（めざす姿）のイメージを明確にもたせることができるだろう。

(使用例)

- ・インターネットや模範になる児童の動きをタブレットで撮影し、動画をプロジェクターで壁などに映し、イメージを明確にもたせる。スロー再生も取り入れることで技のポイントをつかむ。
- ・タブレットで児童の動きを撮影し、その場で再生して提示することで視覚的に技のポイントを示しながら助言する。
- ・模範的な運動像と児童が実際に行う運動とを比較して、問題点を見付け、適切な課題や修正するための手立てを示す。

6 評価計画

観点	単元の評価基準	学習活動に即した評価基準
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。 ・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。 ②技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。 ③開脚前転・後転・側転などの基本的な技や自己の能力に適した回転系や巧技系の発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・表現・自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自己の能力に適した課題を見付けたり、学習資料を活用して課題の解決に向けた活動（練習の場や段階、技の組み合わせ方）を選んだりしている。 ②観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。 ③技のできばえを振り返り、課題を修正したり、新たな課題を見付けたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に積極的に取り組もうとしている。 ・約束を守り助け合って運動しようとしている。 ・仲間の考えや取組を認めようとしている。 ・場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①マット運動に積極的に取り組もうとしている。 ②準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。 ③学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ④仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。

時		1	2 (本時)	3	4	5	6
学習に即した評価規準	知識及び技能	① 運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。					
		② 技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。					
		③ 開脚前転・後転・側転などの基本的な技や自己の能力に適した回転系や巧技系の発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。					
思考力・判断力・表現力等	思考力・	① 自分の能力に適した課題を見付けたり、学習資料を活用して課題の解決に向けた活動（技の段階や組み合わせ方）を選んだりしている。					
	判断力・	② 観察し合って、見つけた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。					
	表現力等	③ 技のできばえを振り返り、課題を修正したり、新たな課題を見付けたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に	① マット運動に積極的に取り組もうとしている。					
	取り組む	② 準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。					
	態度	③ 学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。					
		④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。					
		⑤ 場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。					
評価の観点	知識及び技能	① 【観察】	② 【観察・学習カード】	② 【観察】			③ 【観察】
	思考力・判断力・表現力等		① 【観察・学習カード】		③ 【観察・学習カード】	③ 【観察・学習カード】	
	主体的に学習に取り組む態度	② 【観察】		⑤ 【観察】	③ 【観察】	④ 【観察・学習カード】	① 【観察・学習カード】

7 学習過程（全6時間）

指導のね	技の行い方や技のポイントを知り、自己の能力に適した課題を選び、学習計画をたてる。		基本的な技や自己の能力に適した技に取り組む。
時	1	2（本時）	3
	オリエンテーリング	自分の課題を知る	開脚前転と回転系接点技群の前転グループの技に取り組む。
学習活動	<p>1 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> いろいろな技を知り、自分が取り組む技を決めよう。 </div> <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 開脚前転・後転・側転に取り組む</p> <p>6 既習の学習を振り返る。 ・今までに学習した技に取り組む</p> <p>7 挑戦してみたい技に取り組む。</p> <p>8 クーリングダウン</p> <p>9 場の片付け</p> <p>10 学習のふり返し</p>	<p>1 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の課題を知り、学習計画を立てよう。 </div> <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 開脚前転・後転・側転に取り組む</p> <p>6 自分が取り組むと決めた技の課題を知る</p> <p>7 クーリングダウン</p> <p>8 場の片付け</p> <p>9 学習のふり返し</p>	<p>1 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・開脚前転を美しく回ろう。 ・前転グループの技を身に付けよう。 </div> <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 開脚前転・後転・側転に取り組む</p> <p>6 開脚前転に取り組む</p> <p>7 自分が選んだ技に取り組む</p> <p>8 クーリングダウン</p> <p>9 場の片付け</p> <p>10 学習のふり返し</p>
つまづきの例	<p>① 基本的な技ができない。</p> <p>② 怖がってできない。</p>	<p>③ 自分の課題がどこなのか分からない</p>	<p>①～③</p> <p>④ 腕支持がうまくできていない。</p>
児童への支援	<p>① 技ができている児童の動きを見るように伝える。</p> <p>② 手本の動画を見るように伝える。</p> <p>③ 補助をする。</p>	<p>④ うまくいかないところはどこなのかと問いかける。</p> <p>⑤ 自分の動画と手本の動画の違いを見付けさせる。</p> <p>⑥ 連続図を見て、どこが課題なのか</p>	<p>①～⑤</p> <p>⑥ 自分の課題に応じた場や練習方法を確認する。</p>
概ね満足できる状況にある児童への支援	<p>・良い動きをしている児童を取り上げ、声をかける。</p>	<p>・自分の課題がどこにあるか、分かったら、どこを意識するとよりきれいに技ができるのか考えさせる。</p>	<p>・技ができない児童にポイントを教えるよう声かけをする。</p> <p>・良い動きをしている児童を取り上げ、賞賛する。</p>

指導のね	基本的な技や自己の能力に適した技に取り組む。		基本的な技や自己の能力に適した技に取り組み、単元の成長を確かめる。
時	4	5	6
	後転と回転系接点技群の後転グループの技に取り組む。	側転と回転系ほん転技群の技に取り組む。	開脚前転と回転系接点技群の前転グループの技に取り組む。
学習活動	<p>1 学習課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 後転を美しく回ろう。 後転グループの技を身に付けよう。 <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 開脚前転・後転・側転に取り組む</p> <p>6 後転に取り組む</p> <p>7 自分が選んだ技に取り組む</p> <p>8 クーリングダウン</p> <p>9 場の片付け</p> <p>10 学習のふり返し</p>	<p>1 学習課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 側方倒立回転を美しく回ろう。 回転系の技を身に付けよう。 <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 開脚前転・後転・側転に取り組む</p> <p>6 側方倒立回転に取り組む</p> <p>7 自分が選んだ技に取り組む</p> <p>8 クーリングダウン</p> <p>9 場の片付け</p> <p>10 学習のふり返し</p>	<p>1 学習課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 開脚前転を美しく回ろう。 前転グループの技に挑戦しよう。 <p>2 準備運動</p> <p>3 場の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動に取り組む</p> <p>5 発表する技を練習する</p> <p>6 発表会</p> <p>7 場の片付け</p> <p>8 クーリングダウン</p> <p>9 学習のふり返し</p>
つまづきの例	①～③ ⑤着手ができていない。	①～③ ④腕支持がうまくできていない。 ⑥腰の位置が低い。	①～③
児童への支援	①～⑤ ⑥自分の課題に応じた場や練習方法を確認する。	①～⑤ ⑥自分の課題に応じた場や練習方法を確認する。	
概ね満足できる状況にある児童への支援	<ul style="list-style-type: none"> 技ができない児童にポイントを教えるよう声かけをする。 良い動きをしている児童を取り上げ、賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 技ができない児童にポイントを教えるよう声かけをする。 良い動きをしている児童を取り上げ、賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い動きをしている児童を取り上げ、賞賛する。

8 本時の学習（2／6時間目）

①ねらい ※本時は主として「思考・判断・表現」を評価する。

【知識及び技能】

自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

技のできばえを振り返り、課題を修正したり、新たな課題を見付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合うことができるようにする。

②展開

児童の学習活動	○指導のポイント ☆評価（評価方法）
<p>(1) 集合・整列・挨拶</p> <p>(2) 学習の流れの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">自分の課題を見つけ、学習計画を立てよう。</div> <p>(3) 準備運動</p> <p>(4) 場の準備</p> <p>(5) 感覚づくりの運動に取り組む時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技につながる感覚を養う運動に取り組む。 ・主運動につながる運動に取り組む。 <p>(6) 知る時間【固定グループ】</p> <p>① 回転系接点技群前転グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画資料が学習資料（連続図）、児童の手本を見て、技の行い方を知る。 ・学習資料で技の系統性を確認する。 ・技に取り組んで課題を見付ける。 ・3人組で見合いながら、学習資料の連続図に○を付ける。 ・自分の姿を動画で録画し、自分のできているところや課題を確認する。 <p>② 回転系接点技群後転グループ</p> <p>③ 回転系ほん転技群</p> <p>(7) クーリングダウン</p> <p>(8) 場の片付け</p> <p>(9) 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてについて振り返る。 ・第3時以降の学習計画を立てる。 <p>(10) 整列・挨拶</p>	<p>○服装の確認をする。</p> <p>○掲示物を用いて、本時の学習のめあてや流れを確認する。</p> <p>○使っている部位を意識させるよう言葉を掛ける。</p> <p>○安全に気を付け、声を掛け合って準備をするよう言葉掛けをする。</p> <p>○技へのつながりを意識させながら取り組むよう言葉掛けをする。</p> <p>○系統図の見方を再確認し、技には系統性があり、技が発展するには前段階の技を習得する必要があることを押さえる。</p> <p>○同じ系統の技の中から、自分の力に合った技に取り組み、課題を見付けさせる。</p> <p>○見ている児童は資料を見ながらどこまでできているかを伝えるよう言葉掛けをする。</p> <p>○一連の動きの中で技のポイントを確かめることができるよう、模範動画を収めたタブレットを準備しておく。</p> <p>○場や練習方法の選択や資料の活用、友達同士の助言等によってできるようになった児童（グループ）を意図的に取り上げ、紹介する。</p> <p>☆自分の能力に適した課題を見付けたり、学習資料を活用して課題の解決に向けた活動（練習の場や段階、技の組み合わせ方）を選んだりしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】（観察・学習カード）</p> <p>○安全に気を付け、声を掛け合いながら片付けをさせる。</p> <p>○良く使った部位を中心にほぐす。</p> <p>○自己のめあてに対するできばえを学習カードに記入させる。また、課題の達成状況に応じて、次時の具体的な課題も記入させる。</p> <p>☆マット運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>【知識及び技能】（観察・学習カード）</p>

